

パネルディスカッション  
「日本語教育におけるeラーニングの意義と可能性」

## 日本語教育とeラーニング

日本大学大学院 総合社会情報研究科  
保坂敏子

2017年8月19日  
国際交流基金関西国際センター20周年記念シンポジウム  
「日本語学習者のためのeラーニングとは」

## 話題提供

- ・ICTの教育利用と学習観
- ・日本語教育におけるICT利用の変遷
- ・eラーニングの現代的な役割と意義

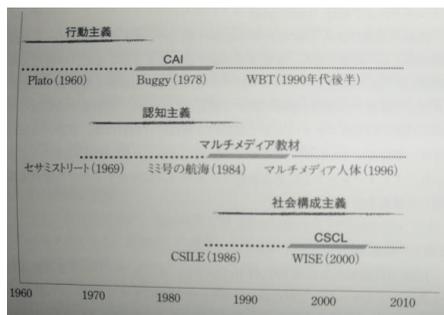
## ICTの教育利用形態と学習観

- ・CAI: Computer Assisted Instruction (1975-1985)  
👉 **行動主義**: 刺激と反応による行動の変容
- ・マルチメディア教材(1985-1995)  
👉 **認知主義**: 学習者の能動的探索による知識の組換え
- ・CSCL: Computer Supported Collaborative Learning (1995-2005)  
👉 **社会構成主義**: 人や道具との相互作用を通して知識を構築  
道具を使って社会的実践をする

## ICTの教育利用形態と学習観

- 個人差への対応
- ・CAI: Computer Assisted Instruction (1975-1985)  
👉 **行動主義**: 刺激 **学びの文脈** の変容
- ・マルチメディア教材(1985-1995)  
👉 **認知主義**: 学習者の能動的探索による知識の組換え
- ・CSCL: Computer Supported Collaborative Learning (1995-2005)  
👉 **社会構成主義**: 人や道具との相互作用を通して知識を構築  
**議論の中で学ぶ** を使って社会的実践をする

## 学習観とICT利用の変遷



出典: デジタル教材の教育学 (山内祐平 2010 p.4)

## 日本語教育におけるICT利用の変遷

1970年代後半 **CAI (Computer Assisted Instruction)**  
**CALL (Computer Assisted Language Learning)**  
⇒ フロッピー、CD-ROM

- ・漢字、文法、助詞、音韻の識別、読解支援 等のCAI
- ・筑波大学、名古屋大学、東北大学、広島大学、ICU

- ・市販の教材『Let's Learn Nihongo』(1988 セイコーCAIシステム)

日本語教育学会誌

1984.10 54号 【特集】 コンピュータと日本語教育

1992.11 78号 【特集】 日本語教育とCAI

## 日本語教育におけるICT利用の変遷

1970年代後半 **CAI (Computer Assisted Instruction)**

個別学習

**CALL (Computer Assisted Language Learning)**

⇒フロッピー、CD-ROM

スタンドアロン

- ・漢字、文法、助詞、音韻の識別、読解支援 等のCAI
- ・筑波大学、名古屋大学、東北大学、広島大学、ICU

- ・市販の教材『Let's Learn Nihongo』(1988 セイコーCAIシステム)

日本語教育学会誌

1984.10 54号【特集】コンピュータと日本語教育

1992.11 78号【特集】日本語教育とCAI

## 日本語教育におけるICT利用の変遷

1990年代初め **マルチメディア教材**

⇒CD-ROM、DVD

- ・マルチメディア日本語教材に関する調査研究 (日本語教育学会1996-98) 『釣リバカ日誌』を使ったマルチメディア日本語教育教材の開発 カスタマイズ可能なマルチメディア日本語教材の開発

- ・CD-ROM 版日本語教材ソフトSFJ-CAI (1998インターコミュニケーション)

1999年8月 第2回「日本語教育とコンピュータ」(CASTEL/J '99)国際会議  
テーマ:「日本語マルチメディア教材の現状と課題  
—21世紀の Digital Courseware に向けて—」

1990年代後半 電子メール、メーリングリスト、電子掲示板の教育利用

## 日本語教育におけるICT利用の変遷

1990年代初め **マルチメディア教材**

能動的学習

⇒CD-ROM、DVD

スタンドアロン

- ・マルチメディア日本語教材に関する調査研究 (日本語教育学会 『釣リバカ日誌』を使ったマルチメディア日本語教育教材の開発 カスタマイズ可能なマルチメディア日本語教材の開発

- ・CD-ROM 版日本語教材ソフトSFJ-CAI (1998インターコミュニケーション)

1999年8月 第2回「日本語教育とコンピュータ」(CASTEL/J '99)国際会議  
テーマ:「日本語マルチメディア教材の現状と課題  
—21世紀の Digital Courseware に向けて—」

コンピュータ  
ネットワークの利用

1990年代後半 電子メール、メーリングリスト、電子掲示板の教育利用

## 日本語教育におけるICT利用の変遷

2000年 = **eラーニング元年**

- ・Web教材、WBT (Web Based Training)
- ・LMS (Learning Management system)
- ・CSCL (Computer Supported Collaborative Learning)

ICTの発達

教材

教師

学習者

現在 多種多様な**eラーニング**の教材、学習システム  
SNS (BBS, Social Network System: facebook, skype)  
Open Education (OCR, OCW, MOOC)

教材・学習システム ⇒ 学習環境へ

## 日本語教育におけるICT利用の変遷

2000年 = **eラーニング元年**

- ・Web教材、WBT (Web Based Training)
- ・LMS (Learning Management system)
- ・CSCL (Computer Supported Collaborative Learning)

ICTの発達

教材

協働学習

自律的学習

教師

学習者

現在 多種多様な**eラーニング**の教材、学習システム  
SNS (BBS, Social Network System: facebook, skype)  
Open Education (OCR, OCW, MOOC)

教材・学習システム ⇒ 学習環境へ

出所: <http://castel-j.org/>

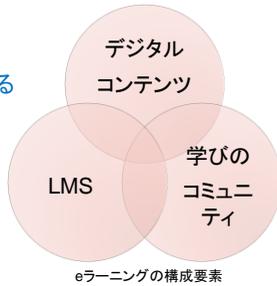


2017年8月 第7回「日本語教育とコンピュータ」(CASTEL/J 2017)国際会議  
基調講演2 「学習環境のイノベーション: 変化する社会に対応する学習環境の構成」

## eラーニングの現代的役割と意義

「eラーニング」とは

ネットワークを介して、  
いつでも、どこでも、学べる  
学習環境



## 日本語教育におけるeラーニングの意義

eラーニングが可能にすること

- ➡世界中の潜在的な日本語学習のニーズに対応
- ➡教育・学習機会の拡大
- ➡多文化間の真正な対話
- ➡多文化間の協働学習
- ➡学びのコミュニティの形成
- ➡自律的学習
- ➡主体的・能動的学習
- ➡自己表現
- ➡生涯学習

## 参考文献

- ・梅田望夫・飯吉透(2010)『ウェブで学ぶーオープンエデュケーションと知の革命』ちくま新書
- ・大坪一夫(1989)「日本の大学における日本語教育」『日本音響学会誌』Vol. 46, No. 4, pp. 304-307』
- ・加藤由香里(2007)「eラーニングが可能とする学習環境の改善ー日本語教育の事例を中心にー」、『大学教育ジャーナル』, 第3号, pp.69-74
- ・重田勝介(2014)『オープンエデュケーション』東京電機大学出版局。
- ・保坂敏子(2010)「多言語の学習者が共有できるe-Learning学習メディアー求められる学習デザイン・コンテンツとはー」『東アジア日本語教育・日本文化研究』13, pp.201-215
- ・宮地功(2009)『eラーニングからブレンディッドラーニングへ』共立出版
- ・山内祐平編(2010)『デジタル教材の教育学』東京大学出版会
- ・吉田晴世他編著(2008)『ICTを活用した外国語教育』東京電機大学出版局

## ポイント2用スライド

ga074: 文化翻訳入門ー日本と世界の文化コミュニケーションー

この講座に登録されています

学習する

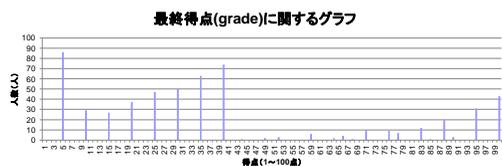


- ・2017年1月11日～3月20日
- ・講座期間: 4週間
- ・各週の配信教材: 講義映像(15分×6本)& 理解確認多肢選択クイズ(2×4問)
- ・最終レポート: 2000字(「文化翻訳」の事例について論じる)
  - ➡受講者同士のルーブリックに沿って相互評価(最低5人分)
  - ➡自己評価

JMOOCカテゴリー  
カテゴリー III  
JMOOC

## 実施結果

- ・受講登録者: 2598名 (修了率 5.5%)
- ・アクティブユーザー: 568名 (修了率 25.2%)
- ・合格者: 143名



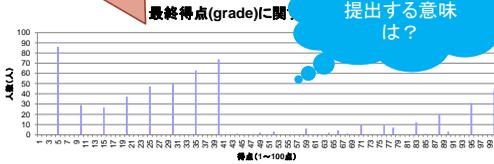
## 実施結果

- ・受講登録者: 2598名 (修了率 5.5%)
- ・アクティブユーザー: 568名 (修了率 25.2%)
- ・合格者: 143名

一般初級向け講座  
修了率3-15%

クイズは受けたが、  
最終レポートは未提出

最終レポートを  
提出する意味  
は？

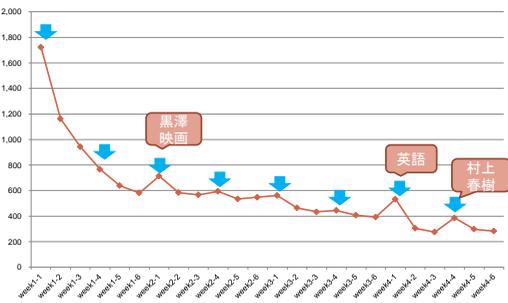


## 授業デザインの工夫

- ・多分野・多国籍の8人の講師によるオムニバス講義
  - ➡ 比較文学、比較文化、翻訳、映画、言語教育
  - ➡ 日本、アメリカ、中国
- ・授業形態 ➡ 講義+インタビュー
- ・各週のテーマ

対象領域	各週テーマ	授業形態	教員
文字テキスト	文学の翻訳、文化の翻訳	講義	日・中
映像テキスト	映画とTVドラマにみる文化翻訳	講義・インタビュー(日・中)	日・日
マンガテキスト	マンガの文化翻訳	インタビュー・講義	日・日
パフォーマンス	グローバル・パフォーマンスと文化翻訳	講義(前半英語)・インタビュー	米・日

## 各回の視聴回数の結果



## ディスカッションへの介入について

- ・教員 ➡ 基本的にコメントしない。問題があった場合、最後のまとめとして。
- ・TA(2名) ➡ 常時対応。

例外: 川端康成『雪国』の「夜の底」の翻訳についての質問  
やりとり: 13件スレッド

~~~~。皆様のご意見を聞かせてください。  
(ドイツ語母語話者)

~~~~。他の方の意見も聞きたいです。  
(担当教員)

## ポイント3用スライド

## JMOOC講座の運用から見たこと

- ・ローカルMOOCの可能性
  - ・世界中からの参加者 @最終アンケート回答者
    - ➡ アメリカ、イタリア2人、ドイツ、ボリビア、オランダ、香港、スペイン、フランス、タイ、シンガポール、スイス、ヨーロッパ
  - ・ディスカッションボード ➡ 非日本語母語話者の日本語で書き込み

ローカルMOOCとしてのJMOOCは  
日本語のリンガフランク環境になる。  
➡ 日本語のリンガフランク・コミュニティの形成に寄与

## JFへの期待

- ・「みなと」を世界中の学習者が生涯学習として学べるオープンな日本語学習の“プラットフォーム”に。
  - ➡日本語のリンガフランカ環境、リンガフランカコミュニティ
- ・学習機会の限られている人、孤立した環境の人に情報とeラーニングが届くように。 ➡教育の機会均等
- ・提案：「みなと」のコース修了者(成績優秀者)に訪日研修の機会を。

## JFへの期待

- ・「みなと」を世界中の学習者が生涯学習としてオープンな日本語学習の“プラットフォーム”JFならではの
  - ➡日本語のリンガフランカ環境、リンガフランカコミュニティ
- ・学習機会の限られている人、孤立した環境の人に情報とeラーニングが届くように。 ➡教育の機会均等
- ・提案：「みなと」のコース修了者(成績優秀者)に訪日研修の機会を。